

編集発行・伊勢御遷宮委員会  
伊勢市岩淵1-7-17(伊勢商工会議所内)  
電話0596-25-5215

「伊勢 神話への旅」ホームページ  
https://isesengu.jp

# 伊勢のごせんぐ



## 第五十回 初穂曳

お初穂奉納

令和3年  
10月15日 外宮  
10月16日 内宮



奉曳を自粛し、関係者によるお初穂奉納・参拝を行いました

令和2年に続き、令和3年も新型コロナウイルス感染症防止対策の一環として初穂奉曳は自粛いたしました。初穂曳として五十回を数える記念の年ではありましたが、神嘗祭奉祝行事として、お初穂奉納のみを行いました。15日外宮では午前10時より伊勢神宮奉仕会役員、同青年部が参列、それぞれが束ねた初穂を手に静かに神域へと奉納参拝を行いました。そして16日内宮では午前9時30分より内宮領川曳の今年度の担当団である四郷奉献団によりお初穂の奉納、参拝が行われました。マスク姿で最小限の人数、肅々と行われた初穂奉納ではありましたが、初穂の実りに感謝し、コロナ禍がこのまま終息に向かい来年こそその開催を神前にて祈るといった気持ちを一息にしました。



田植えはあいにくの雨(令和3年4月)



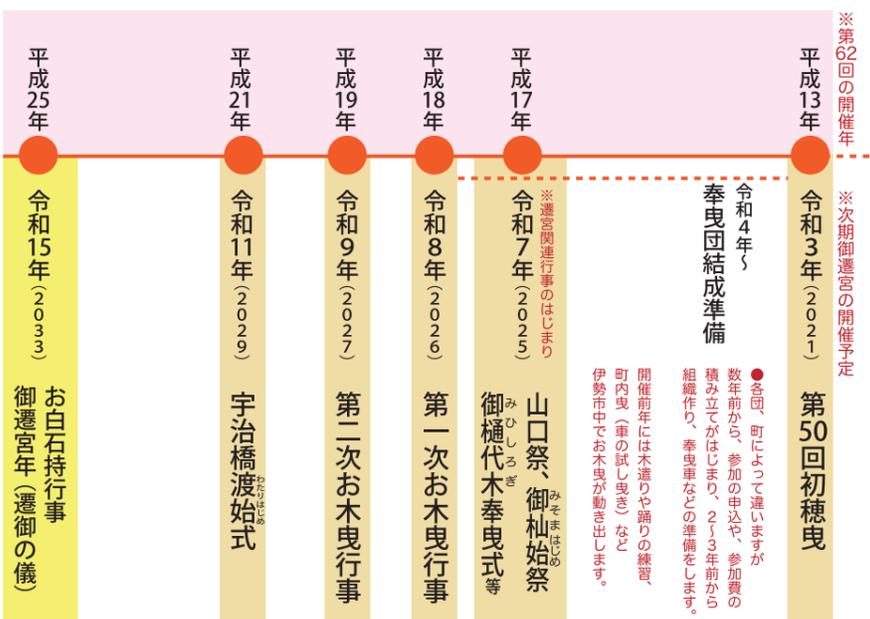
奉納のための稲束は手刈りで(令和3年8月)

伊勢神宮奉仕会青年部では、その活動の一環として、30年前から初穂曳でお納めするお米(稲穂)づくりを手がけ、田植え、稲刈りを実施しています。例年は子どもたちを交えて開催する恒例行事ですが今年も残念ながら、多くの方にご参加いただくことは自粛。伊勢神宮奉仕会青年部と関係者のみ少数人数で田植え、稲刈りを行い、お初穂奉納の準備を行いました。

実りの時期を迎えて

# 令和のお木曳は…

御遷宮関連行事年表



※一連の行事開催年は前例を反映した予定です。社会情勢等により変動する場合があります



※写真は第62回神宮式年遷宮お木曳行事/平成18、19年

伊勢市民こそぞつての参加を目指して

神宮の御遷宮行事の一環である伊勢市の民俗行事「お木曳」。前回の例をたどれば、遷宮年の7年前から2年に亘り実施されます。御遷宮の実施は20年を「式年」としていますが、歴史的にも戦争の混乱など様々な事情で20年毎が叶わないときもあります。重要な神事の日時は「御治定」として天皇陛下が決定され、それに従って進みます。次期御遷宮については、前回に倣い実施時期を予定しながら準備をしていきます。

そして、「お木曳行事」という名称からわかるように、神宮の祭祀と並ぶ、伊勢の市民による御遷宮関連民俗行事であり、御遷宮のご用材が伐り出され運ばれることに由来するため神宮の御遷宮諸祭・諸行事に合わせて行うこととなります。

伊勢市内に分布する奉曳団は、その地域、あるいは歴史的由緒により、内宮領・外宮領のいずれかに属し、行事の数年前から各地区で奉曳団が結成され本曳に臨みます。時代毎に市民の生活も変わり、地域それぞれの事情、変化もありますが、今も、歴史を伝える市を挙げての民俗行事の準備が少しずつ進められています。

地域によっては参加申込がはじまっているところもあります。神宮とともにある旧神領の市民として、ご奉仕の心を表す伝統ある民俗行事にぜひご参加ください。

### ■キーワード「お木曳の歴史を説明したい！」

550年以上の歴史がある民俗行事「お木曳」。ご遷宮で造営されるお宮のご用材を運搬する作業が行事化したものです。

当初、御遷宮は国の直轄で行われ、全国からご造営資金といえる「役夫工米」が集められ実施されていました。そして地元神領民には御遷宮に伴う「ご用材」や「敷石」の運搬などが課せられており、その労役が慣例となったのがはじまりです。



復刻版絵葉書 お木曳行事(陸曳)/大正時代